日本新聞製作技術懇話会 広報委員会編集

編集人 辻裕史 東京都千代田区内幸町 日本プレスセンタービル 8階(〒 100-0011) 電話(03)3503-3829 FAX(03)3503-3828 http://www.conpt.jp



CONFERENCE FOR NEWSPAPER PRODUCTION TECHNIQUE JAPAN

VOL.37 No.3 2013.5.1 会報(通巻 219 号)

日本新聞製作技術懇話会会 報(隔月刊)(禁転載)



目次

JANPS2012	技術開発賞を受賞して	㈱東京機械製作所	•••••	3
JANPS2012	技術開発奨励賞を受賞して	(株)クロスデザイン		5
		清水製作㈱		6
		ストラパック(株)		7
		東芝ソリューション(株)		8
		東洋インキ(株)		9
新局長に就任	して	熊本日日新聞社 印刷局長	前田 直	10
	新潟日報社 取締役黒埼本社・印刷・シス	テム担当 執行役員印刷局長	阿達 秀昭	11
会員社リポー	F			
クォ-	- ド・テック・インク日本支店、パナソニック	フシステムネットワークス(株)		12
	コダック(株)、ミューラ	ラー・マルティニジャパン(株)		13
楽事万歳	北日本新聞社	土 編集局システム情報部長	早川 徹	14
	三菱重工印刷紙工材	後械(株) 新聞輪転機営業部長	矢森 仁	15
会員名簿				16

●表紙写真提供:「CONPT TOUR2012 入選作より」 富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ㈱・辻 裕史氏 「最も歴史のあるパリの新聞社 -Le Figaro」

●表紙製版:㈱デイリースポーツプレスセンター

●組版・印刷:㈱デイリースポーツプレスセンター

JANPS2012 投資開発賞を受賞して

㈱東京機械製作所

この度、日本新聞協会より「ジェットリーダー1500」に対して、栄誉ある「技術開発賞」を受賞致しました。これもひとえに、当社を支えて下さる顧客の皆様のご支援の賜物であると、社員一同感謝しております。心より御礼申し上げます。

この「ジェットリーダー1500」は、2009年に 開催されたJANPS2009への出展を目標に、 プロトタイプ機の開発からスタートしまし た。長年、新聞輪転機一筋に歩んで参りまし た私どもにとって、「デジタル印刷機の開発」 というテーマは、凸版からオフへ、また軸有 機からシャフトレス機への転換より、さらに 高いハードルであったと考えております。

インクジェットの印字へッドという、私どもにとっては新規のデバイスを用いて、走行する用紙に微細なインキを着弾させるというデジタル印刷技術は、開発陣にとってもまったく新たなチャレンジでありましたが、「顧客第一」を社是とし、「伝統と信頼の先進技術」を合言葉に、多くの技術革新を続けてきた当社にとって、将来的に必ず新聞界、新聞製作界に必要となる「新聞のデジタル印刷」は、どうしても克服しなくてはならないテーマでした。

ヘッドを始めとする各種製品に関して調べ上げ、多くの展示会も見聞しました。ありとあらゆるインキや用紙の特性を確認しながら、「輪転機メーカーが作ったデジタル印刷機」をコンセプトに開発を続けました。

開発の過程で、新聞用オフセット輪転機の 折機と同等のパフォーマンスを発揮する後工 程装置の開発にも成功致しましたが、これなど



秋山日本新聞協会会長から表彰を受ける芝社長

は、長年、新聞製作の現場に携わってきた当社ならではの技術であると自負しております。

そして、給紙部から折畳部まで、新聞を製作するための連続した機器構成とし、紙面データの受け取りから新聞出力までのワークフローを含めた一連のシステムで構成される「ジェットリーダー1500」が完成致しました。

前述したように、2009年に開催されました JANPS2009には、プロトタイプ機を出展し、 皆様の前で、はじめて実演運転を致しました。

また、2012年4月には、読売新聞社に絶大なるご支援を賜り、伊賀工場に於いて、関西地区におけるウォールストリート・ジャーナル・アジア版の本番印刷を開始致しました。これは、わが国初のデジタル印刷機による新聞印刷として、国内外に大きな反響を呼び、各新聞社の社長様、製作担当の役員の皆様、また技術関連の皆様のご見学が相次ぎました。

2012年5月には、ドイツはデュセルドルフに於いて開催されましたdrupa2012に出展。 当日付けの『米国版THE WALL STREET JOURNAL』(ブロードサイズ)の実演を行い ました。 毎朝、米国から送られてくる紙面情報を当社ブースで受信し、TKSワークフローで処理、これを米国版と同じ紙面構成(最大5セクション72ページ)で、解像度600×300dpi、毎分150メートルの速度で印刷致しました。また、事前にお預かりした紙面情報をもとに、ベルリナーサイズの『韓国・中央日報』やタブロイドサイズの『京都新聞』の印刷も行い、ジェットリーダーのフレキシブルな性能を実感して頂きました。

2012年9月には、上記の伊賀工場におけるウォールストリート・ジャーナル・アジア版の本番印刷、およびdrupa2012の実演運転をご覧になり、そのポテンシャルを実感された米国シカゴのNEWSWEB社が、drupa2012出展機を、そのままの仕様で「ジェットリーダー1500」の第1号機として導入されることとなりました。

2012年10月には、シカゴで開催された GRAPH EXPO 2012にあわせて、NEWS-WEB社に於いて内覧会を開催致しました。

そして、2012年11月、満を持して、546mmから813mmまでカットオフ可変な「バリアブルフォルダー」を装備した最新型の「ジェットリーダー1500」をJANPS2012に出展。会期中には展示賞を頂戴して、スタッフー同喜んでおりましたが、その後、この度の「技術開発賞」受賞となり、また新たに大

きな喜びを得た次第です。

お陰さまで、この「ジェットリーダー1500」は、国内の新聞社様への納入も決定、NEWSWEB社への第2号機の他、米国からのお引き合いを頂き、国内の各新聞社、印刷会社からも見学のご依頼を頂戴しております。

世界最高の印刷品質、印刷技術を誇るわが 国の新聞社にとって、デジタル印刷は、その 生産性と品質の面で、「まだまだ先の話」であ ろうかと思われます。しかしながら、多品種 小ロット印刷、離島、遠隔地等の配送困難地 域、あるいは、地方紙、全国紙が小部数でシ ンクロするエリア等、デジタル印刷の条件に 合致する、いや、デジタル印刷でこそ問題解 決できる案件があるのではと考えております。

そして、その先にはバリアブル・データを縦横に活用したパーソナルな新聞の未来も見えて参ります。あらゆるメディアやデバイスが変革を続ける現在、「紙だから」できないというはずはないと、敢えて申し上げたいです。そして、先駆けてデジタル分野に参入されるアドバンテージもあるのではと考えております。

私ども東京機械製作所は、この度の受賞に 慢心することなく、今後も更なる開発を続け、 より早く紙面品質も向上したジェットリーダ ーの次世代機を開発する所存です。変わらぬ ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。



ジェットリーダー1500

JANPS2012 投前開発運劢賞を受賞して

㈱クロスデザイン

クロスデザインでは、新聞制作のワークフローを進化させ、多種多様なメディアへの配信も効率的に行うことのできる、クロスメディアクラウドサービスのLEPUSを開発、提供しております。

このたびはLEPUSの将来性を高く評価いただき、技術開発奨励賞をいただくことができ、大変光栄に感じております。

■従来制作工程にあった課題

従来の新聞制作工程では、紙面制作とは別のシステム、別のフローでデジタル配信用の作業を行うことが一般的でした。それにより、余計な手間が増えるため、Web配信などはおろそかになることも多かったようです。い

ろいろな新聞社の方々のお話を 同う中で、「コンテンツの一元 化をしたい」「余計な手間なく 業務進行したい」という要望が 共通していました。LEPUSは、 そういった思いを解決すること も目的に開発されています。

■紙面とデジタルの同時制作が 可能に

LEPUSとは、従来の新聞制作システムのように、画面上で新聞のレイアウト作業を行うことのできるクラウドサービスです。紙面に掲載する記事や画像などの各種素材をダイレクトにWeb配信やスマートフォンアプリへ配信することができるた

め、従来同様の紙面制作工程の中で、手間を増やさずにデジタル配信が可能になります。

紙面のみのクローズな出力ターゲットでなくなった今、クラウドサーバをはじめとした 運用効率の高い環境への移行が急務であると 叫ばれ始めており、LEPUSではその面でも 効率化に貢献します。

■安全なクラウド環境

運用環境を検討する中で、社外のサーバで 運用することの不安もあるようです。しかし、 社内サーバで運用するシステムは一度ダウン すると復旧するまで代替環境の稼働が難しい ケースが多く、その面でのリスクが高い運用 となります。その点、クラウド環境ではミラ ー環境の整備をしておくことで即時スイッチ して復旧することも可能であり、また専用線 接続などのセキュリティ対策を行うことで、



強固なセキュリティを実現することもできます。

■読売新聞東京本社にて今春本格稼働開始

新聞業界に限らず、メディアが多様化する 現在では、制作のバックグラウンドとして CMS (コンテンツマネジメントシステム)が 必須とされています。しかしながら、フォー マットの全く違う紙面と各種デジタルメディ アを理想的な形で一元管理できるCMSは、 LEPUS以外には存在していません。

2013年4月には、読売新聞が発行する日刊 英字新聞「The Japan News by The Yomiuri Shimbun」の紙面制作、Web運用を含めた総 合運用基盤として稼働を開始いたしました。

今後さらに開発スピードを上げ、より新聞 制作ワークフローの進化に貢献したいと考え ております。

清水製作㈱

この度、JANPS2012出展において、弊社 ブランケットクリーナー「SSBC-T10」 を栄えある技術開発奨励賞にご選定頂 き大変光栄に存じます。選定頂きまし た委員会他業界関係各社の皆様に心よ りお礼申し上げます。

さて、受賞いたしました「SSBC-T10」の開発経緯につきましてご紹介いたします。4×1輪転機用のブランケットクリーナーを開発するにあたり第1の課題は「限られた設置スペースへの対応」でした。4×2輪転機と比較し洗浄機器の設置スペースは狭くなり、洗浄ユニットの省スペース化が課題となりました。そこで上下2胴を1台の洗浄ユニットで同時に洗浄する方式を採用し省スペース化を図りました。その結果、洗

浄ユニットの数理的合理化により先ず『イニシャルコストの低減』を実現しました。開発において時間を要したのは装置の重量の問題でした。開発当初は洗浄ユニットの重量が50kg程度あり、印刷作業員の作業負荷が大きくなり洗浄ユニットの軽量化が求められました。最終的に40kgまで軽量化を実現し且つ、洗浄布交換作業は機上にて交換できる弊社従来機方式を継続採用し印刷作業員の作業負荷を抑えることに成功しました。

第2の課題は「新たな付加価値を見出すこと」でした。上記の『イニシャルコストの低減』とともに業界の大きなニーズである『ランニングコストの削減』を開発テーマに加え洗浄布(洗浄液含浸不織布)の更なる有効利用を可能にする方式を目指しました。洗浄布の表裏両面を使用するという考えは以前から多くのお客様より要望を受けていた経緯もあり、また表裏両面を使用した洗浄テスト等での運用には得ておりましたので新たな付加価値として開発テーマに盛込みました。「SSBC-T10」の上下2胴を1台の洗浄ユニットで同時に洗浄する方式の中でこのテーマを効率よく実現す

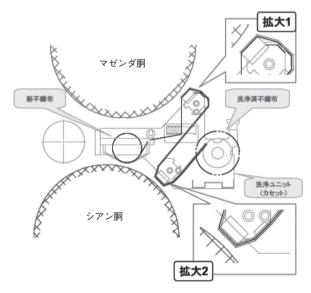


図:SSBC-T10概略図

ることに成功いたしました。その結果、「SSBC-T10」は1本の洗浄布の表裏両面を使用し上下2胴を同時に洗浄することで洗浄布の使用量を従来機(洗浄布の片面を使用し1胴を洗浄するタイプ)から半減することが出来ランニングコストの大幅削減を図れます。

このように「SSBC-T10」は新たな試みと共に新たな付加価値を見出すことが出来た製品だと捉えております。この点を評価頂き今回の受賞に繋がったものと考えております。

清水製作は今後もお客様の声に敏感に応えると共にそこに新たな付加価値を見出していく、そのような物作りを進めてまいりたいと考えております。

ストラパック(株)

この度、JANPS2012において、カウンタースタッカー (型式NCS-7)が「技術開発奨励賞」の栄えある栄誉をいただき、大変、光栄に存じます。選考いただきました委員会他関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

弊社ストラパックは昨年10月に旧ニチロ工業と合併しましたが、一貫して新聞発送機器ラインを手がけてまいりました。昭和41年に業界で初めてポリプロピレンバンドによる新聞束結束機を新聞社に納入、以降、各発送機器の開発を進め、昭和54年にカウンタースタッカーの1号機を新聞社に納入することができました。現在730台のカウンタースタッカーが国内外の新聞社で稼働中でございます。

カウンタースタッカーの機能を簡単にご紹介します。輪転機で印刷された新聞は、キャリアにて発送室まで運ばれ、カウンタースタッカーに投入されます。投入された新聞はすべて計数、区分けされ、販売店からの部数情報毎に束が作成され、後工程の包装ラインに送り込みます。

輪転機印刷速度の高速化に伴い、発送機器

もその高速化に対応してまいりましたが今 回、受賞の対象となりましたカウンタースタ ッカーNCS-7型は現在最も多く稼働してい る16万部/時対応のカウンタースタッカーの モデルチェンジ機として開発されました。主 な内容は①機械高さは従来サイズを維持しつ つ、中間部にターン機構を装備。袋出し制御 が輪転機の速度に影響されにくくなった②バ ッチ受け高さをサーボモーターによる可変式 としたことで、従来の厚ページ機能は維持し つつ、薄ページブロード紙・タブロイド紙の 荷姿安定化が実現③本体側面に装備されてい た制御盤全体を開閉式に、ターン部に大口径 ベアリングを採用したことでメンテナンスが 大幅に向上。その他、紙面汚れ対策で区分部 ローラ一体化も図りました。NCS-7は従来の 16万機NCS-5よりも一段と機能アップを実 現しましたが機械サイズは同サイズとしまし たので更新の際にも、キャリアルート変更の 必要がなくなったことが評価されたと思いま す。今後も、ご要望やご意見をいただきなが ら、新聞製作に寄与すべく努力する所存です。

最後に本製品の実稼動テストにあたり、ご 支援・ご評価いただきました日本経済新聞大 阪本社様、日経西日本製作センター様には、 紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。



五阿弥技術委員長から表彰を受ける下島社長

東芝ソリューション(株)

この度は弊社の新聞社向け「販売管理ソリューション」を栄えある2012年度技術開発奨励賞にご選定頂き、誠にありがとうございます。

新聞社の販売管理業務は、複雑な取引形態や独自の商慣行、制度があるため、一般的な販売管理パッケージソフトでは適用できない分野であると考えております。本ソリューションでは新聞社と共同開発することにより、新聞社の特殊な販売管理業務の要件を網羅することが可能となりました。

本ソリューションで提供する機能は用途に 応じた20の機能群に分類しており、必須とな る6機能群以外は投資効果に応じて自由に選 択できる形態でご提供しております。

ご提供可能な機能群とその内容を以下にご 紹介いたします。

○販売増減

- ・発行日・発行媒体・届け先ごとの増減部 数を管理するサブシステムです。宅配店・ 即売店・社内送付先など多様な届け先を事 前設定可能です。
- ・実送数/現在数からの増減数/事前設定し
- 多彩な方法での入力が可能です。即売社との契約で多い曜日増減数やイベント時増減数の事前設定も可能です。

ておいたパターン数など

- ・印刷・発送指示時刻に なると、その時点までの 入力内容に基づき、印刷 場所ごとの指示内容を作 成します。
- ・月次処理により、請求 書用部数データの作成を

行います。また、各種部数管理資料の印刷 が可能です。

○請求管理

<請求関連>

- ・販売増減側の月次処理結果に基づく新聞 代売上計算、社内制度に基づく補助奨励金 の計算、物品請求代の計算や入力などを行 い販売店向け、即売社向けの請求書発行を 行うサブシステム群です。
- ・取引保証金などの販売店側資産について も請求書での取立・残高管理が可能です。
- ・発行した請求書に対する入金処理・残高 消し込みが可能です。複数回入金にも対応 しており、入金履歴の閲覧も可能です。
- ・売上伝票、仕訳伝票などの会計連携が可能です。また、会計システムを介した外部 支払、社員精算も可能です。
- <情報管理関連>
- ・住所マスタと連動した販売店の配達区域 管理、読者管理、社員の購読住所の管理が 可能です。

○共通機能

- ・利用ユーザの設定、ユーザグループごと に付与する権限の管理が可能です。
- ・販売店、即売業者口座について付帯情報

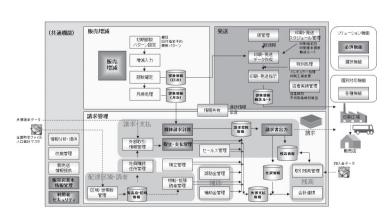


図:販売管理ソリューション機能ブロック

とともに管理が可能です。

- 複数企業・複数本支社対応が可能です。
- ・Webtop対応のため、ブラウザでの操作が可能です。

今後「販売管理ソリューション」は、より多くの新聞社でお使いいただけるようにクラウドサービス対応を検討しております。

東洋インキ(株)

この度、JANPS2012に出展致しました新型紙面検査装置Toyoassistant-FX2に対し「技術開発奨励賞」という名誉ある賞を頂き、誠に光栄に存じます。

紙面検査装置Toyoassistant-FXシリーズは1998年の発売開始以来、数多くの新聞社にご使用して頂いております。その後継システムであるFX2の開発ポイントは以下の通りです。

【既存FXを活用し分割更新が可能】

FX2は新規に設置する事はもとより、既にFXを導入済みの場合においても、図-1の通

り、設備計画に応じた分割 更新が可能で、設備投資負 担を分散出来ます。更新方 法としましては1st Stepと して既存の制御盤内のデー タ処理部を交換する事によ り検査性能をアップさせま す。次に2nd Step以降で既 存のセンサーの電装部を更 新する事により故障リスク を低減させます。さらに、 既存FXシステムで使用可 能な配線、筐体などの部材 を使用しオーバーホールす る事で、更新コストを抑制 します。



【検査性能の向上】

FX2における性能向上のポイントは①従来の反射光量差に加え擬似色差型アルゴリズムを新たに導入する事より、汚れ判定において人の目に近い検知が可能になります。②位置補正アルゴリズムを従来の予測制御に加え、現紙面での補正を追加する事により、絵柄上の検査性能が向上します。③地汚れ検知部を精細化させ、新たなアルゴリズムを追加する事で、地汚れ検査性能が向上します。④演算処理を向上させる事により基準画像処理時間が半減します。⑤検査履歴機能を付加し、検査中にいつでも基準画像と欠陥画像の比較をディスプレイ上で確認出来るようになります。

【おわりに】

既存のFXシステムを活用しつつ分割更新が可能であり、さらに従来機以上に安定した検査性能と操作性を向上させた点についてもご評価して頂き、選考頂きました委員会、関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。今後も皆様のご期待にお応えする事で、東洋インキは新聞印刷業界の発展に貢献してまいります。

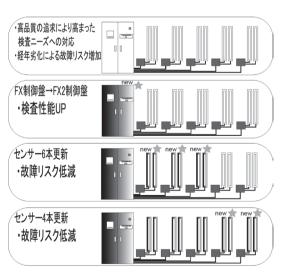


図:FXからの分割更新例

新局長に就任して

チームワークを大事に

熊本日日新聞社 印刷局長

前田 直

昭和53年入社当時、本 社の輪転機は凸版輪転機 であった。脱鉛化に向け 検討を行っている最中 で、本社から4Kmほど 離れたところに実験工場 (現世安本社)があり、2



年前から平版直刷りのダイリソ印刷(昭和52 年に新聞協会技術賞受賞)を始めていた。直 接業務に携わってはいないが、試行錯誤の連 続だったと聞いている。その後、CTS化・オ フセット化の波に乗り、昭和56年世安に製作 センターが完成。24頁4カラーの輪転機が2セ ット導入され、わが社で初めてのオフセット 印刷が始まった。多くの部員はほとんどオフ セット印刷未経験者ばかり、立ち上げ時や停 止時には断紙の連続であった。まだ印刷経験 の浅かった私は、印刷フロアーにある何トン もの刷り損の山を処理するのが毎日の仕事 で、朝刊を印刷して帰宅するのが朝のラッシ ュ時を過ぎることもたびたびであった。3年 後には、右肩あがりの部数増に対応すべく3 セット目の導入や32頁への増頁対策として、 既設機へハーフデッキを追加して、32頁4カ ラーの3セット体制が確立した。その後も部 数増・モアカラーに対応すべく、製作センタ ーに隣接して2号館を建設。キーレス機の導 入や既設輪転機の改造を行った。更なるカラ ー化で平成12年までに現在の形であるタワー 型オフ輪3セット体制となった。また、昨年 から老朽化した輪転機の更新に関して検討を 開始しているが、右肩上がりの時代と違い今 のような人口減少の時代に入り、将来はそう

簡単には輪転機を更新するような時代にはならないような気がする。どのようにして設備をできるだけ長く使用していくか、頭が痛い問題である。

* * *

入社当時の印刷局では、技術は見て盗めという時代であり、職人の技が幅を利かせていた。昭和56年、上流のCTS化・下流のオフセット化に伴い、HOT時代からCOLD時代へ移ったころから、職人の技から技術の標準化へと移ってきたようだ。日常のデータ収集とそのデータを利用して、経験が浅いオペレータが操作しても印刷可能なようになってきた。日頃から機械の状態を把握し、万一のトラブル時に対処できるように、データの活用を図って安定稼働を目指している。

10数年ほど前、折機に紙が詰まり印刷不能になったことがある。懸命に紙を取り除いたが、機械的に壊れてOS側の印刷ができない状態であった。当時から折機内でのDS転送の機能はあったが、厚頁ではしわが発生して使用できなかった。そこで、ネスト部のターンバーを90度反転させOSの紙をDSへ入れることにした。トラブル翌日の昼勤総出で全ターンバーを慎重に入れ替え、テスト印刷でも問題がないことを確認。1週間ほどその状態で印刷を続けた。技術管理部の経験が長かったため、色々なトラブル時にどう対応しようか考える癖がついていたお蔭だろうか?

* * *

3月1日付けで印刷局長に就任して1ヶ月が過ぎた。印刷局生え抜きの局長として、現場を少しは知っているという強みを活かして局の運営を行っていきたいと思っている。また、印刷局には昔からの良い慣習がある。一つは、挨拶である。局員がメーカーの方々と現場で会ったときには、必ず挨拶をしている。メーカーの方からも、挨拶を受けて非常に気持ちが良いですねとお褒めの言葉をよく受ける。

もう一つは、後の者に迷惑を掛けないという 事。ローテー職場のため、昼間の作業ミスで 朝刊帯の者に迷惑を掛けないよう心掛けてい る。「印刷はチームワークだ」が私の持論(モットー)だ。チームワークが乱れると輪転機 さえも逆転しかねないとの思いがある。今後 もチームワークを大事にしていき、一枚岩だ と言われている印刷局の伝統をこれからも永 く続けて行きたい。

ヨーソローよろしく

新潟日報社 取締役黒埼本社・印刷・システム担当 執行役員印刷局長

阿達 秀昭

日本一の大河信濃川の河口付近、新潟市中心部「萬代橋」のたもとに現れた新潟日報社新社屋「メディアシップ」が4月12日出航した。メディアシップの名称は江戸時代から



明治時代にかけて日本海を往来し人、モノ、情報を運んだ北前船に由来する。新潟市で3番目に高い20階建て105元の立ち姿は北前船の帆をイメージした。県内へ全国へ、はたまた世界に情報発信する「現代の北前船」-。わが社にとっては30年ぶりの新潟市中心部への回帰である。最上階20階から眺めた越佐海峡(新潟—佐渡島間)の日本海に沈む夕日は格別だ。

* * *

新社屋メディアシップが万代本社と呼ばれることに対し、印刷センターを中核としたこれまでの建物は「黒埼本社」と名付けられ、二大本社体制の一翼を担う。新聞制作や印刷・輸送業務に支障が生じないよう両拠点間の連携をより緊密にし、車の両輪のごとく支え合わなければならない。30年前、新潟市の中心部から10^{*}。余離れた郊外に印刷工場を含めた

本社を移転した。高速道路のインタチェンジ にほど近いとはいえ、当時全国の新聞社の中 で県庁所在地以外に本社を構えたのは極めて 異例のことだった。

安定した収入源として位置付けられるようになった東京紙の受託印刷は、そのころから日経新聞などを皮切りにスタート、読売、朝日両新聞に次いで昨年3月に毎日新聞を受託したことで一応の山を越えた。本紙50万部と受託紙21万部を安定印刷し販売店に定時に届けることが最大の使命である。

このため輪転機周辺のオーバーホール実施を優先してきた。オーバーホールは10年9月からの第1期分を11年4月に終了、今年6月までに第2期分も終える。導入当時、最新鋭機と称された各種機器も、年月とともにこれまで以上に厳しい監視が必要になってきた。個々人のスキルアップと併せてミスやトラブルを回避するためのメンテナンスも肝要だ。一方で、昨年末にNECと共同開発した高精細AMスクリーン導入がようやく軌道に乗ってきた。カラー面の品質向上とともに、課題のモノクロ面の改良にも見通しが立った。今後の高濃度インキや超軽量紙(減斤紙)の導入につなげたい。

印刷センターが02年に現在地に新設されてから丸10年たつ。局内機構改革、印刷部と発送部を組織統合した「印刷発送部」も発足から10年目に入った。ここ10年間新人採用のゼロ行進が続くが、ベテランの経験と若手のセンスをうまくかみ合わせながら黒埼本社一丸となって万代本社出航元年を乗り切りたい。

* * *

最後にこの度の出航祭にご出席いただいた 関係者の皆様にこの場をお借りして心から感 謝申し上げるとともに、今後のさらなるご指 導ご鞭撻を願いするしだいです。「ヨーソロ ー」とは「宜しく候」の意味だそうです。私自 身も就任1か月余の新参者。よろしくお願い します。

ニーズを形に

クォードテックは長年の新聞印刷の中で培った測定技術と制御技術を更に発展させ、業界に貢献できる会社を目指しています。

自動見当装置を中心に活動をしてきましたが、近年ではカットオフやターンバー制御、 予測制御など、無駄を削減するための取組を 積極的に行っています。

日本固有の課題や個別ユーザー特有のニーズにも対応しやすいよう、ユーザーと話し合いから生まれる様々なニースを形にしてお届けできる国内での開発体制を確立してきました。

新たな製品としては色調制御装置AccuCamを紹介し、国内2号機の設置が決まりました。海外では英国のNews Printer社と米国のChicago Trubune社での数十タワー向けの大きなプロジェクトが始まり両社から高い評価を頂いています。

また、昨年終盤に米国のCGI社よりデジタルインキング装置の部門を買収し製品のラインアップに加わりました。

これらの製品群とユーザーのニーズを形に することにより今後も新聞印刷に関係する皆 様のお役に立てるよう力を入れて参りますの で今後ともよろしくお願い致します。

- QuadTech. クォード・テック・インク日本支店

パナソニック システムネットワークス発足

当社は、本年3月1日にパナソニックグループ内で事業統合を行い、商品の開発、製造を担当していた「パナソニックシステムネットワークス」、新聞・印刷業界向け商品の開発、製造を担当していた「パナソニックSSインフラシステム」、そしてソリューション販売会社である「パナソニックシステムソリューションズジャパン」の3社が合併し、「パナソニックシステムネットワークス」として発足いたしました。

新会社は、お客様のお困りごとを全社をあげてお伺いし、解決策をご提案することで、お客様の競争力強化のお役に立ち、お客様と共に成長・発展したいという思いで生まれた会社で、パナソニックグループのシステムソリューション事業の中核を担って参ります。

当社には長年培ってきた画像処理技術や通信技術の蓄積とモノづくりのノウハウ、さらに幅広い商品群とIPを軸としたシステム提案力があります。

それらに加えて、パナソニックが世界中で ご提供している映像、情報機器などのさまざ まな商品群を組み合わせることで、お客様の 期待を大きく上回る付加価値をお届けしたい と願っています。

新会社となりましたが、新聞・印刷業界をはじめ、広く社会に貢献し続けていくため、パナソニックの新しいインフラシステムソリューションを創造し、それらをグローバルに 展開することによって、街・社会の安心、安全、便利、快適に貢献して参ります。

引き続き努力していきますので、今後とも ご支援賜りますようよろしくお願いいたしま す。

パナソニック システムネットワークス(株)

高品質化と効率化と付加価値と

コダックは、高品位インプット製品から、コンピュータ・トゥ・プレート(CTP)向けの多彩なレコーダーラインアップ、ワークフロー関連のハードウェアとソフトウェア、プルーフィングシステムとメディア、フィルムや印刷用プレートなどの消耗品をはじめ、電子写真方式のデジタル印刷システム、インクジェット方式のデジタル印刷システムなど、印刷工程全体の効率化、自動化、印刷品質の向上、高付加価値化を実現する多彩なソリューションを提供しています。

新聞印刷業界におきましては、定評ある SQUAREspotサーマルテクノロジーによる 高品位な刷版出力に加え、刷版工程の合理化、 自動化を可能にするコンピュータ・トゥ・プ レートTrendsetter NEWSシリーズと ExThermo TN-NEWS CTPプレート、写真 のような画像再現を可能にするFMスクリー ニングStaccato、インターネットを介して校 正の合理化、効率化を図るポータルソリュー ションInSiteや、印刷現場でのより効率的な 色校正環境を実現するPressProofソリューションなどをご採用いただいております。

今後、コダックでは、新聞高速(20万機)輪転機の印刷スピードに対応可能なProsper Sシリーズインクジェットプリンティングシステムを使用した新聞ハイブリット印刷をご提案させて頂き、付加価値を付けた新聞印刷を通して、皆様のビジネスの成長を支援してまいりたいと考えております。

今後ともコダック製品を宜しくお願い申し 上げます。

Kodak コダック(株)

"MM サービス"

ミューラー・マルティニは、Drupa2012で「MMサービス」という新しいサービス展開を発表しました。「MMサービス」とは、既設装置のパフォーマンスを最大に引出す総合サービスの事を言います。その内容についていくつかご紹介致します。

「MMアップデート」

既設装置に品質検査装置追加による品質事 故防止や、フィーダー追加・トリマー交換な どによる機能向上を図ります。

「MMインスペクト」

定期的に機械の診断・点検を実施すること

により、常に機械の性能を正常に保ち、突発 の故障を未然に防ぐことが目的です。

「MMリペアし

長くご使用いただいた機械のオーバーホール、糊釜・ステッチャーの整備をする事で、 その性能を復元させることを目的とします。

ミューラー・マルティニ ジャパンは、来年で40周年を迎えます。新規設備のご提案のほか、既設装置の点検・整備について、また国産制御装置の組込などこれまで以上に積極的に取組んでいきたいと考えています。

今後ともミューラー・マルティニとMMサ ービスをよろしくお願いいたします。

MÜLLER MARTINI

ミューラー・マルティニジャパン(株)

楽事万歳

山住みの夢

北日本新聞社 編集局システム情報部長 早川 徹

積雪の多かった今年の冬も終わり3月下旬 ともなれば平野部は桜の季節となりますが、 出身が山間部だった事もあり山林、主に杉の 手入れ作業が始まります。最近は花粉症の原 因として肩身の狭い思いをしていますが、曾 相父の代から子や孫のためにと思い植林され 続けてきたものを粗末にもできず、運動不足 解消もかねて手入れをしています。鉈(なた)、 "ガンド"と呼んでいるノコギリ、ペットボト ルにお茶を入れ、おにぎりを持って出かけま す。近年はかなり林道も整備されており作業 現場近くまで車で行くことができるようにな りました。主な仕事は北陸の湿って重い雪で 倒れた杉をわら縄を使って"杉起こし"をしま す。真っ直ぐな杉を育てるためには植林後10 年くらいは続けなければなりません。杉林の 境界を確認し雑木を切るなど手を入れて、お 隣さんにこちらが見回っていることも明示し ておきます。現場に向かう途中では山桜を眺 め、足下にはカタクリの花が咲き、思いもか けない場所にミズバショウの群生を見つける 事もあります。

* * *

林業の現状については、時々ニュースで掲載されているように木材価格の低下により、立木を伐採しても経費を差し引くと森林所有者には利益が少ないどころか持ち出しになってしまいます。現在は市街地に家を持ち、定年になった人や会社勤めの傍ら休日に手入れのために行っている人がほとんどです。そのため子供や孫の代になり境界線が分からなくなったり、放置されている森林も多くなっています。人の手が入らなくなった森林が多くなり、温暖化の影響でしょうか、縄張りや樹

液をなめるためと言われているツキノワグマの樹皮剥ぎの被害が多くなっています。それも数十年かけ非常に良く成長した杉ばかりが被害を受けて枯れてしまいます。また足が短いので積雪地帯には生息しないといわれていたイノシシですが、冬の積雪が少ない年が続いていたせいか掘り返し跡が見られるようになりました。

* * *

例年ならばゴールデンウィークはちょうど 山菜採りに良い時期なのですが、ここ2年は 冬の積雪が多かったため、昨年に続き山菜の 収穫時期は少し遅れているようです。山菜の 呼び名も地域により異なっているようです が、最初は"こごみ"から始まり、わらび、タ ラの芽、ウド、ぜんまい、たけのこ、よしな、 ギョウジャニンニクなどを採る楽しみもあり ます。特にタラの芽のてんぷらは家族にも人 気です。自生しているきのこについては知識 が無いので避けていますが、杉林の中に「ホ ダ木 |で椎茸、ナメコが育成されています。 自然の風雨にさらされてゆっくり育つせいか 肉厚で味の濃い物が採れます。子供の頃はご 飯のおかずに山菜ばかりが続くので飽きてい ましたが、今思えば大変な贅沢だったと思い ます。

* * *

近年の新入社員の携帯は、ほぼスマートフォンのようです。試しに携帯ショップで操作してみました。確かに便利で多機能でしたが、結局操作が単純な今のフィーチャーフォンを使い続けることになりました。1年に何度もモデルチェンジしているスマートフォンを横目で見ながら、携帯電波の届かない場所で、四季を感じながらの山仕事も生活のリフレッシュには、ちょうど良いのかもしれません。祖父の潰した句をふと思い出しました。

「山住みは山住みなりに夢持てり この夢 の中 明日へのよろこびあり」蓬村

走る!ひたすら走る!

三菱重工印刷紙工機械(株) 新聞輪転機営業部長

矢森 仁

趣味は、と聞かれると困る。テニスは10年 以上やっているが余り旨くない。

ゴルフは4人で廻っても孤独な道を歩まねばならない。再会は昼食時となる。

映画は好きだが頻繁には見ない。本は大好きだが様々なジャンルを乱読。賭け事は絶対 勝てないので基本はしない。

では、毎日何をやっているのか、と言えば、 ひたすら走っている。

いつから走るようになったのだろう。中学 生の頃は体育の1500mが嫌で嫌でサボッてい た。

多分大学生の頃からか、、、社会人になって からは毎日となった。

そう、社会人になって30年以上毎日走っている。平日7キロ、土日15キロが最低ノルマである。

* * *

人と話しをする中で、たまにランナー仲間の方に出会う。ランナーの皆さんは普通休日に走りこんで練習を重ね、色々なマラソン大会に出場して成果を確かめたり、次の目標を設定したりする。でも、私の場合は大会にも出場しないし、特に目標タイムというのも無い。

私の走りは毎日の日課であり生活のリズムとなっている。良く、毎日走るって大変じゃないですか?と聞かれるが、私の場合は走るのも歩くのも実は同じ意識であり、食事する、眠る、走るが同列なのである。本当に30年間無休で走っているのか?と疑う方も多い。でも事実なのである。なので、二日酔いで走れないとか、風邪を引いたり、病気や怪我で走れないということも無い。気候も関係ない。

雨が降っても、雪が降っても、台風でも同じで気にする事も無い。海外でも同じ。以前は長く輸出担当であったので、今よりもっと大変ではあった。イラクの摂氏48度、ロシアのマイナス25度が両極で、北欧でもアジアでも米国でも全てはこの範囲内である。

* * *

ただ、長く走っているとトラブルも発生する。

一番困るのが道に迷った時だ。パリで一度、 ドイツで一度。パリは凱旋門を中心に放射線 状に道が伸びているので、右折や左折のカウ ントで道が覚えられない。よって帰れなくな り2時間半走り続けてやっと帰還できた。し かも道を聞いても英語が通じない。大学時代 仏語専攻であったが思い出す筈も無い。ドイ ツでは実はCONPTツアー2012での朝のラン ニングで帰れなくなった。持って出てきたホ テルのカードキーにホテル名も住所電話も何 の記載も無かったのだ。運悪く非常に長い覚 えられないホテル名だった。散々迷って最後 にタクシーに飛び乗り、ホテルの形や色、装 飾を伝え、やっと帰還した。既に出発時刻が 迫りツアーメンバーがロビーに集まりつつあ った。ギリギリセーフだった。ツアー副団長 であったので、失踪事件にでもなれば一生言 われる所であったがそれ所では無い。ツアー の皆さんは別の国に移動してしまうスケジュ ールだったのだ。

* * *

最後に一つだけ困った事が有る。走らないと死ぬほど気持ちが悪いのだ。結論を下せば、これはもう趣味でもトレーニングでも無く、ビョーキなのである。懇話会の仕事上業界雑誌や新聞などに投稿する機会も多いので、仕事の話は良く書くが、今回は自分の事を書けとの要請であったが、不得意である。よってこの様な独白文となってしまった。

日本新聞製作技術懇話会 会員名簿(42社) 平成25年5月1日現在

社 名	〒番号	所 在 地	連絡先
(株)インテック	136-8637	東京都江東区新砂1-3-3	03-5665-5097
NECエンジニアリング(株)	270-1198	千葉県我孫子市日の出1131	04-7185-7614
岡本化学工業㈱	335-0004	埼玉県蕨市中央2-6-4	048-431-4816
㈱加貫ローラ製作所	544-0005	大阪府大阪市生野区中川5-3-13	06-6751-1121
(株)KKS	555-0011	大阪府大阪市西淀川区竹島4-11-54	06-6471-7771
(株)金陽社	141-0032	東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー6階	03-5745-6223
クォード・テック・インク日本支店	336-0034	埼玉県さいたま市南区内谷3-11-26	048-839-8831
コニカミノルタビジネスソリューションズ(株)	103-0023	東京都中央区日本橋本町1丁目5番4号 コニカミノルタ日本橋ビル	03-5205-7820
コダック(株)	101-0062	東京都千代田区神田駿河台2-9 KDX御茶ノ水ビル	03-5577-1200
(株)ゴス グラフィック システムズ ジャパン	350-1328	埼玉県狭山市広瀬台2-5-15	04-2954-1141
サカタインクス(株)	112-0004	東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル	03-5689-6666
清水製作㈱	108-0023	東京都港区芝浦3-17-10	03-3451-1261
ストラパック(株)	221-0864	神奈川県横浜市神奈川区菅田町2800	045-475-7229
西研グラフィックス(株)	110-0016	東京都台東区台東4-29-15 上野永谷タウンプラザ213	03-5812-3681
第一工業㈱	335-0002	埼玉県蕨市塚越7-2-8	048-441-3660
DICグラフィックス(株)	101-0063	東京都千代田区神田淡路町2-101 ワテラスタワー7F	03-6733-5067
田中電気㈱	101-0021	東京都千代田区外神田1-15-13	03-3253-2816
椿本興業(株)	108-0075	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル17階	03-6718-0151
(株)椿本チエイン	108-0075	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル17階	03-6703-8402
東京インキ(株)	114-0002	東京都北区王子1-12-4 TIC王子ビル	03-5902-7651
㈱東京機械製作所	108-8375	東京都港区芝5-26-24	03-3451-8172
東芝ソリューション(株)	105-6691	東京都港区芝浦1-1-1	03-3457-4410
東洋インキ(株)	104-8378	東京都中央区京橋2-7-19 京橋イーストビル8・9F	03-3272-0721
東洋電機㈱	480-0393	愛知県春日井市神屋町字引沢1-39	0568-88-6401
東和電気工業㈱	104-0032	東京都中央区八丁堀1-7-7 長井ビル6F	03-6222-5005
(株)ニコン	100-8331	東京都千代田区有楽町1丁目12番1号 新有楽町ビル	03-3216-2065
ニッカ(株)	174-8642	東京都板橋区前野町2-14-2	03-3558-7861
日本アイ・ビー・エム(株)	103-0015	東京都中央区日本橋箱崎町19-21	050-3150-0738
日本新聞インキ(株)	108-0075	東京都港区港南1-8-27	03-3450-5811
日本電気㈱	105-8540	東京都港区芝3-23-1 セレスティン芝三井ビル	03-5476-4656
日本ボールドウィン(株)	108-0023	東京都港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル11階	03-5418-6121
パナソニックシステムネットワークス(株)	224-8539	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町600番地	045-938-1613
㈱日立製作所	140-8573	東京都品川区南大井六丁目27番18号	03-3763-2411
富士フイルムグローバルグラフィックシスムズ㈱		東京都港区西麻布2-26-30富士フイルム西麻布ビル	03-6419-0421
富士通㈱	105-7123	東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター	03-6252-2625
富士薬品工業㈱	176-0012	東京都練馬区豊玉北3-14-10	03-3557-6201
方正(株)	140-0014	東京都品川区大井1-24-5 大井町センタービル	03-5746-2651
ボッシュ・レックスロス(株) サーボシステム事業部		東京都渋谷区渋谷3-6-7 ボッシュビル3階	03-5485-7240
三菱重工印刷紙工機械㈱	144-0033	東京都大田区東糀谷4-6-32	03-3744-2951
三菱製紙㈱	130-0026	東京都墨田区両国2-10-14両国シティコア	03-5600-1475
ミューラー・マルティニジャパン(株)	174-0042	東京都板橋区東坂下2-5-14	03-3558-3131
明和ゴム工業㈱	146-0092	東京都大田区下丸子2-27-20	03-3759-4621